

外来淡水エビ 2 種の侵入と分布について

長谷川 政智(シナイモツゴ) 郷の会)

2000 年以降、外来淡水エビのカワリヌマエビ属エビの生息が日本の各地で報告されるようになった。宮城県では 2005 年に池田実氏によって七北川支流の高柳川で生息が確認され、その後、蕪栗沼でも確認された。池田実氏が 2013 年のシンポジウムで、カワリヌマエビ属エビの分布拡大の阻止が必要なこと、在来エビにどのような影響を及ぼすか、今後調査が必要と講演した。

2014 年から 2015 年にかけて宮城県北部を中心に外来淡水エビのカワリヌマエビ属エビと在来エビのヌカエビの生息分布を調査した。河川・水路等 126 箇所とため池 64 箇所で調査を行い、広瀬・名取川ではヌマエビだけが確認され、それ以外の調査河川・水路ではカワリヌマエビの生息が確認され、上流部でようやくヌカエビを確認した。ため池ではヌカエビだけの生息が確認されたのは 30 箇所、カワリヌマエビだけの確認は 6 箇所、両種の生息を確認したのは 7 箇所、両種を確認できなかったのは 21 箇所だった。河川・水路やため池のどちらも、カワリヌマエビ属エビが在来エビのヌカエビに対し負の影響を与えていることが調査で確認された。また、北上川においてカワリヌマエビ属エビとヌカエビの両種が確認できた地点やヌカエビだけが確認できた地点で、1 年後に調査するとカワリヌマエビだけになっていた。水路と高低差があって侵入不可能と思われたため池でも本種が確認され、侵入初期から駆除を実施したが完全駆除には至っていない。このことは、カワリヌマエビ属エビが完全に閉鎖された場所以外では生息分布を広げていることを示唆している。結果、在来種のヌカエビの生息域を狭めていることになる。

カワリヌマエビ属エビの調査中、在来淡水エビのスジエビと酷似したエビを発見した。本種は、大貫貴清氏が 2005 年に静岡県高松市で初めて確認した外来淡水エビの *Palaemonetes sinensis* と同種であることを宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団によって確認された。2015 年に石巻市で繁殖を確認し 2016 年には伊豆沼と伊豆沼周辺の沼で繁殖を確認している。ここ数年で、全国各地（四国、九州、関東）において本種の確認がインターネットで掲載されるようになった。また、現在、インターネットでスジエビとして販売もされている。今後、さらに本種の分布拡大が予想される。

カワリヌマエビ属エビ、*Palaemonetes sinensis* とともに在来エビと外部形態が似ているので調査の際、間違える可能性や別の場所へ移植してしまうことも考えられる。今後、啓発活動や分布調査の継続、駆除技術の開発が必要と考えられる。